

災害時、重機で住民救援

伏見の産廃業者ら 自主防災会と協定



大規模災害発生時における地域協力についての覚書を結んだ締結式(京都市伏見区)

京都市伏見区の産廃処理業者などでつくる「千両松地域エコ協議会」が11日、大規模災害などに備えた地域協定を同区の横大路学区自主防災会などと結んだ。万一の際には保有する重機や車両を用いて救援活動を行うほか、避難所への物資運搬などに務める。

15事業所が加入する同協議会は、定期清掃など地域のまちづくり

に参画しており、今回初めて防災体制の強化に取り組む。協定には

高齢者総合福祉施設「レーベン横大路」も加わり、大災害時には車いすを提供したり、浴室やトイレを避難者に開放する。

協定は同日付の締結で、1年毎に更新する。緊急時の連絡網も整備する。同協議会副会長の田端俊三さん(51)は「地域に何か手助けができないか考えてきた。防災はその一つで、顔の見える関係を築くことが重要」と話していた。

(森大樹)